

2017 年定時総会

デジタルでの情報発信に注力

新規会員の獲得が喫緊の課題

日本労働ペンクラブの2017年定時総会と新年懇親会が1月10日、東京・内幸町の日本記者クラブで開催された。参加者は、会員のほか、各界の招待者などを合わせ、合計で117名だった。

会員総会は、冒頭、昨年中の物故会員に対する黙とうの後、稲葉康生代表が今年の活動を振り返って挨拶をおこなった。稲葉代表は、「昨年はヒアリング、見学会、モンゴル訪問など多くの活動が活発に行われた。当クラブには広い分野から多彩な人たちが参加しているので、その意見交換や交流も楽しみである。これからの活動でどんな光景が見えるのか、今年の活動に期待したい」と語った。

中川隆生事務局長からは、16年度の活動報告、林元夫会計幹事からは、決算報告、坂田一復三監事から監査報告がそれぞれあり、いずれも承認された。

新年懇親会で挨拶する稲葉代表

続いて17年度の活動計画及び予算案についての提案があり、これも原案通り承認された。このなかでは、主に財政上の理由から会報を年4回以下の発行に縮減、代わってホームページと連携したデジタルでの情報発信を強化することが打ち出されている。

なお、予算案の説明の中で林幹事は、昨年末における会員数は197名、会費納入人数は189名であり、当ペンクラブの予算規模は200人体制なので、近々、財政事情がひっ迫するのは必至と指摘。会員に新規会員の拡大を強く訴えた。



規約を一部改正

今年度は役員改選期に当たるが、役員推薦委員会の数度の議論を経て、新たに2点の重要な提起がなされた。

ひとつは執行体制の充実を図るために事務局次長を「1名」から「2名以内」とする規約の改正案、もうひとつ、代表の任期についての特別措置の提案。

特に代表については、後任の候補が見つからなかったことから、空席が生じることを避けるため、推薦委は現代表に続投を要請したうえで、「2017年度の場合に限り」規約の規定（2期4年）を適用しないという特別措置の必要性を提起。これらの提案についても満場一致で承認された。

稲葉代表が続投、新事務局長に麻生英明氏

このあと 17 年度の役員選出に移り、稲葉代表、麻生英明事務局長ほかの全員が承認された。

なお、労ペン賞について、久谷與四郎選考委員長から、会員による推薦作品が 1 点あったが、審査の結果、今回は該当なしとしたとの詳細な報告があった。